

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper'. It depicts Jesus and his twelve apostles seated around a long table in a room with a coffered ceiling and several windows. The scene is captured in a moment of dramatic tension as Jesus announces his betrayal. The figures are rendered with soft, sfumato shading, and the composition is balanced around a central vanishing point.

西洋美術史ゼミ

第14回

印象派

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



前回の内容

- フランス革命とナポレオン戦争の反動として復古的な**ウィーン体制**が成立した。また、その反動として**七月革命**が起こり、さらにフランスでは**二月革命**が起き**共和制**が成立した。
- 新古典主義の反動として、個人の感情や想像力に重きを置く**ロマン主義**が興った。また、貧富の差への不満から現実世界に美を見出そうとする**写実主義**（**リアリズム**）が興った。



ドラクロワ 《民衆を導く自由の女神》

本日の内容

世界史について

- 産業革命（事前）
- アメリカ独立戦争（事前）
- ウィーン体制の成立
- 19世紀のヨーロッパ文化

美術について

- ロマン主義・写実主義

全体の概略

- 19世紀のヨーロッパでは、国家主義の高まりから各国が**国家統一**を目指し始めた。また、**第二次産業革命**が起こったことや、**植民地が再評価**されたために**帝国主義**が席卷した。これによって諸国の関心がアジアやアフリカに向き、ヨーロッパでは戦争が起こらず**大衆文化**が成熟した。
- 資本家の台頭からサロンでは**歴史画が衰退**し、**世俗的な絵画**が主流となった。これに対し、1860年代から**新しい歴史画**が生まれた。
- アカデミズムに対する前衛である**印象派**が生まれ、**光の動きや変化の質感**を表現する絵画を描いた。

本日の内容

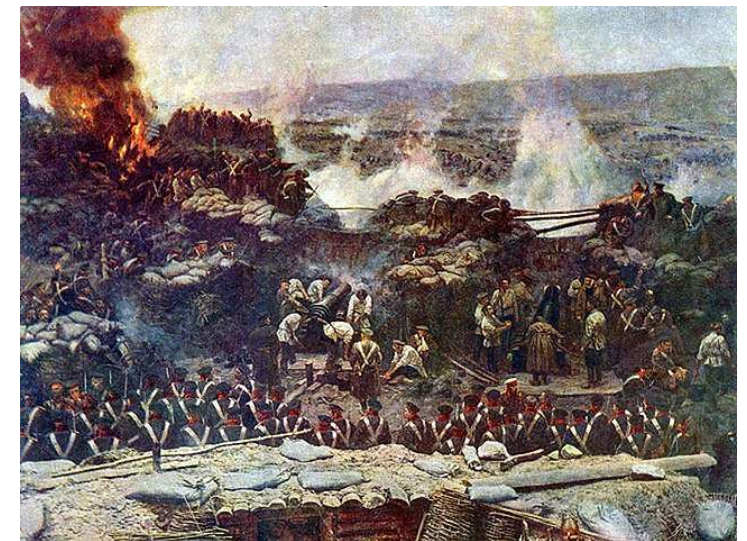
- **世界史：ヨーロッパの再編成**
- 世界史：帝国主義
- 美術史：アカデミズムとサロン
- 美術史：リアリズムの諸相
- 美術史：印象派
- 美術史：ポスト印象主義

ヨーロッパの再編成：CONTENTS

- ① 概略
- ② フランス第二帝政と第三共和政
- ③ ヴィクトリア期のイギリス
- ④ イタリアの統一
- ⑤ ドイツの統一
- ⑥ ロシアの改革
- ⑦ 国際的諸運動の進展

ヨーロッパの再編成

- 1853年にロシアとオスマン帝国の間で起こった**クリミア戦争**は、イギリスやフランスも参戦しヨーロッパ列強同士の戦いとなった。
- この戦争の後、各国はそれぞれの国内問題の解決に集中するようになり、列強間での協議による利害調整が少なくなった。
- その結果、各国は比較的自由に行動できるようになり、**国家統一をめざす戦争や紛争が多発した**。



セヴァストープオリ包囲戦

フランス第二帝政と第三共和政(1): 復習

- 前回の内容をざっと復習する。
- フランス革命後に復古的な**ウィーン体制**が成立したが、**七月革命**によって倒された。
- ウィーン体制が崩壊した後は自由主義者の王が統治したが、産業革命による社会変動などを理由として**二月革命**が起こり、**第二次共和制**が成立した。
- その後、大統領選で当選した**ルイ＝ナポレオン**（のちの**ナポレオン3世**）が独裁権を握り、皇帝に就任して**第二帝政**が始まった。



ナポレオン三世

フランス第二帝政と第三共和政(2)

- 第二帝政は**農民、資本家、労働者**などそれぞれ利害を異にする勢力に支えられた。
- 大規模な公共事業を行い国内産業を育成するほか、クリミア戦争をはじめとする対外侵略政策を行い国民の人気を維持した。

・クリミア戦争

エルサレムの聖地管理権をロシアが要求し、オスマン帝国と開戦した戦争。ロシアの南下を阻止するため英仏がオスマン帝国側につき、ロシアは敗北した。

フランス第二帝政とその崩壊(3)

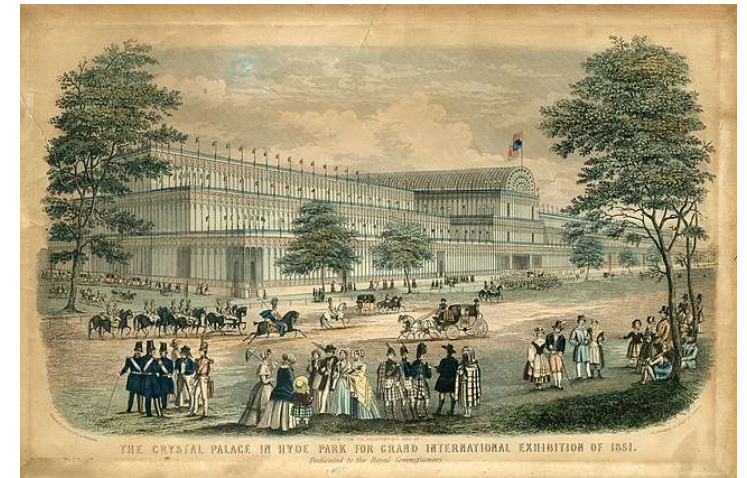
- しかし、**プロイセン=フランス（普仏）戦争**（1870）に敗れ、皇帝が捕虜となり第二帝政が崩壊した。
- その後国内では将来の政体をめぐって**王党派と共和派**とが対立し、政情は不安定だった。しかし、辛うじて共和制が優勢を保ち、1875年に**第三共和政憲法**が制定されることとなる。



ジャンニオ 《火線》

ヴィクトリア期のイギリス(1)

- 産業革命を経た19世紀のイギリスは「**世界の工場**」として繁栄の絶頂を迎えた。
- **ヴィクトリア女王**治世下、1851年に世界初の万博博覧会である**ロンドン万博博覧会**が開かれ、その近代工業の成果を誇示した。



1851年のロンドン万国博覧会

ヴィクトリア期のイギリス(2)

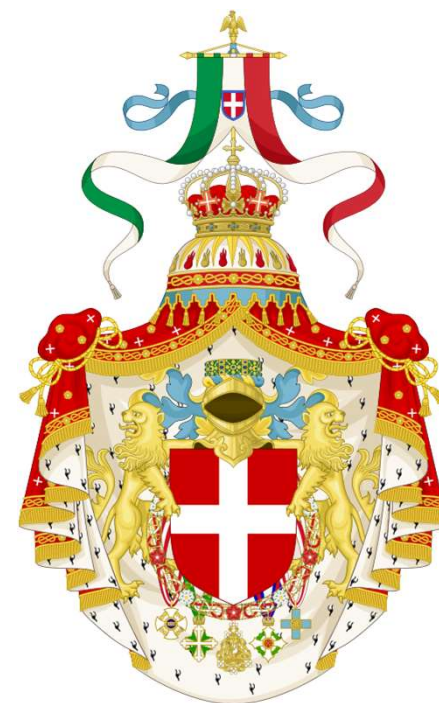
- 内政では、**保守党と自由党**の2政党が交代して政権を担当する**議会議党政治**が成立したほか、都市労働者や農業・鉱山労働者の**参政権**の実現、**初等教育の整備**などが行われた。
- また、外交では**インド帝国**（イギリスのインド直接支配）の設立や、ベルリン会議での**ロシア南下の阻止**などが起こった。



ヴィクトリア女王

イタリアの統一

- イタリアでは小国に分裂している状態が続いていたが、この時代に統一運動が起こり、**イタリア王国**が成立した。
- しかし、大部分は統一・併合したものの、イタリア居住区でありながら併合できない「**未回収のイタリア**」の問題が残った。この問題は1975年まで続くこととなってしまう。

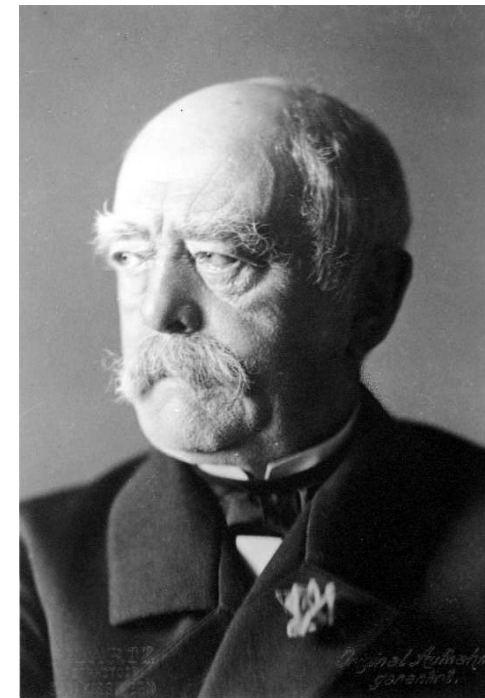


Katepanomegas, CC 表示-継承 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=14924749>による

イタリア王国の国章

ドイツの統一(1)

- ウィーン会議で**ドイツ連邦**が結成されたが、統一国家には程遠かった。
- 1834年にプロイセンを中心に大多数のドイツ諸邦からなる**ドイツ関税同盟**が発足し、経済的な統一はほぼ果たされた。
- 1861年に**ヴィルヘルム1世**が即位し、**ビスマルク**を宰相に登用した。ビスマルクは議会の反対を押し切り**軍備を拡張**した。これを**鉄血政策**という。



1890年のビスマルク

ドイツの統一(2)

- その後プロイセンは**デンマーク**や**オーストリア**と**開戦し勝利**。これによりドイツ連邦は解体され、プロイセンがドイツ統一の主導権を握った。
- その後、プロイセンはフランスと**プロイセン=フランス(普仏)戦争**を起こした。結果はプロイセンの圧勝で、ナポレオン三世を捕虜にしてフランス第二帝政を崩壊させ、またフランスの弱体化を図り厳しい条件を含む講和を結んだ。



普仏戦争のフランス兵

ドイツの統一(3)

- 1871年にヴィルヘルム1世がドイツ皇帝の位につき、**ドイツ帝国**が成立した。
- ドイツ帝国でビスマルクは約20年間、なかば独裁的な権力をふるい、**有力なカトリック教徒を抑圧したり**（文化闘争）、**社会主義者を弾圧**するなどした。



ヴィルヘルム1世

ドイツの統一(4)

- 外交においては**フランスの孤立化**を方針とし、国力充実のため**平和協調外交と同盟政策**を推し進めた。
- 1878年にロシアの南下を阻止した**ベルリン会議**や、1882年にドイツ・オーストリア・イタリアで結んだ**三国同盟**が重要である。
- プロイセンが他国と結んだ複雑な同盟網は**ビスマルク体制**と呼ばれる。



ヴェルナー 《ベルリン会議》

ロシアの改革(1)

- 19世紀前半のロシアはヨーロッパ最大の後進国で、いまだ**農奴制**が強固であった。皇帝は貴族と結びつき、**皇帝専制政治**（**ツァーリズム**）を維持していた。
- しかし、七月革命の影響で起こった反乱を鎮圧するなどして、**反革命の擁護者**として国際的な地位を得たロシアは、南下政策の一環として**オスマン帝国と開戦した**（**クリミア戦争**）が敗北。ロシアは近代化を迫られることとなった。

• オスマン帝国

13世紀末から20世紀まで続き、最盛期には東ヨーロッパ、西アジア、北アフリカにまでまたがる領域を支配したイスラームの大帝国。15世紀にビザンツ帝国を滅ぼした。

ロシアの改革(2)

- クリミア戦争の敗北を受け、**アレクサンドル2世**は近代化の必要性を痛感した。そして、彼は1861年に**農奴解放令**を出し、農奴に人格的自由を認めた。
- しかし、産業発展が十分でなかったロシアでは、急進的な革命の担い手は都市の知識人であった。彼らの一部である**ナロードニキ**（人民主義者）は農村に**社会主義思想を持ち込んだ**。



クストーディエフ 《農民の解放》

国際的諸運動の進展

- 19世紀には、国際的な連帯を求めたり、国境を越えて協力し合う運動も盛んになった。
- 特筆すべき事例として、1864年にマルクスが指導者となり**第一インターナショナル**（国際労働者協会）が結成されたことと、1863年に**国際赤十字社**が設立されたこと、1896年に**国際オリンピック大会**（いわゆる近代オリンピック）が開催されたことがある。



第一回オリンピック

本日の内容

- 世界史：ヨーロッパの再編成
- **世界史：帝国主義**
- 美術史：アカデミズムとサロン
- 美術史：リアリズムの諸相
- 美術史：印象派
- 美術史：ポスト印象主義

帝国主義(1)

- 1880年代になると資本主義が発展し、**帝国主義**時代が始まった。
- 石油と電力を動力源とし、**重化学工業**が発展した**第二次産業革命**を中心として、**農村からの移民の増加**や、**植民地の再評価**などが起こった。
- その結果、工業力や資本力を背景として**イギリス・フランス・ドイツが上位**に位置づけられ、ロシア・オーストリア・イタリアは下位となった。



ドイツの化学工場

帝国主義(2)

- 上位国のなかでもドイツは植民地獲得に出遅れた。これを理由にしてドイツが**植民地の再分配**を主張し、英仏との対立を深めた。この出来事の後、これらの国家間で排他的な**国家主義と軍備拡大競争**が起こり、第一次世界大戦の大きな要因となった。
- しかし、この紛争はアジア・アフリカやバルカン半島を中心としており、ヨーロッパ中心部では戦争は起こらなかった。そのため成熟した市民文化が定着し、**現代型の大都市大衆文化**が生まれた。



1895年のフランスの
マダガスカル侵攻を喧伝するポスター

帝国主義下のイギリス

- 19世紀半ばイギリスは、圧倒的な経済力・海軍力を背景に**自由貿易**を押し進めた。
- 帝国主義政策として、**スエズ運河の経営権**を握るほか、エジプトやオーストラリア、ニュージーランド、南アフリカを支配した。
- また、**労働組合活動**が盛んになり、労働党が結成された。この政党は革命ではなく、議会活動による社会主義建設を目指した。



1860年のスエズ運河

帝国主義下のフランス

- 第三共和政下のフランスでは、豊かな中産階級に支えられた**銀行の資本力**を武器に帝国主義政策を追求した。
- フランスは**植民地拡大政策**を実行し、インドシナ・アフリカに大植民地を作り上げた。また、**ブーランジェ事件**（クーデター未遂）などの共和制攻撃を乗り越え、共和国は安定した。



ブーランジェ運動の高揚を描いた風刺画

帝国主義下のドイツ

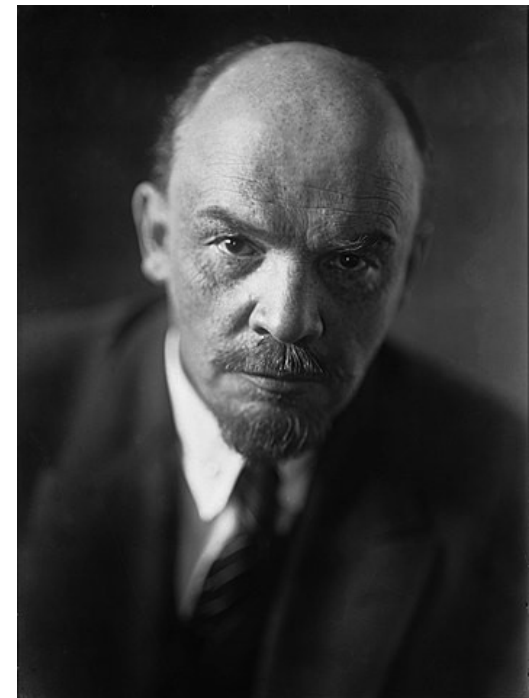
- 1888年に即位した**ヴィルヘルム2世**はビスマルクと対立し、90年にビスマルクは辞職した。そして、ヴィルヘルム2世は「**世界政策**」の名のもとに**海軍力の強化**を図り、強引な帝国主義政策を追求した。
- 国内では社会主義運動が盛んになり、**ドイツ社会民主党**が帝国議会第一党となった。彼らはマルクス主義に基づき社会主義を実現すると主張したが、やがて党内に修正主義が現れた。



ヴィルヘルム2世

帝国主義下のロシア(1)

- 農奴解放令により生み出された労働力と、フランスからの資本導入によりロシアにおいても**資本主義**が発展した。
- また、1898年にマルクス主義政党として**ドイツ社会民主党**が成立したが、その直後に**レーニン**率いる急進的な**ボリシェヴィキ**と穏健な**メンシェヴィキ**に分裂した。



レーニン

帝国主義下のロシア(2)

- そして、日露戦争の戦況が不利になるなかで起こった平和請願のデモに対して軍隊が発砲した**血の日曜日事件**が起こった。
- この事件は多数の死者を出し、民衆は皇帝への信頼を失った。これを発端として**第一次ロシア革命**が起こり、**立憲政体**を樹立した（がまもなく専制政治に戻った）。



第一次ロシア革命

本日の内容

- 世界史：ヨーロッパの再編成
- 世界史：帝国主義
- **美術史：アカデミズムとサロン**
- 美術史：リアリズムの諸相
- 美術史：印象派
- 美術史：ポスト印象主義

アカデミズムとサロン(1)

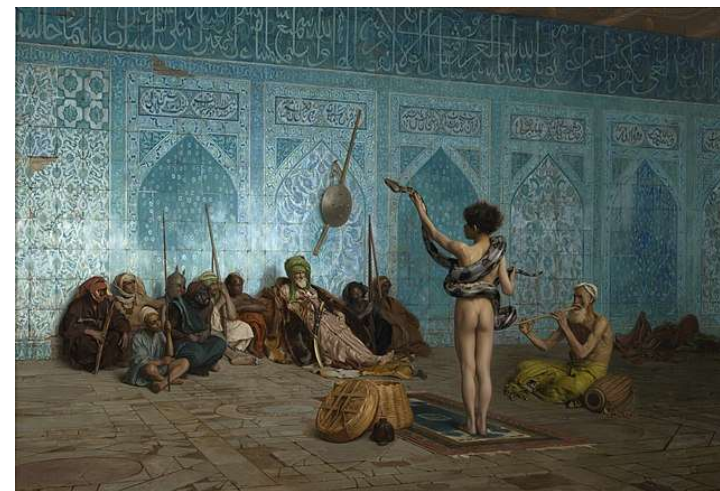
- フランス革命後から**サロン**（サロン・ド・パリ）は会員制から**公募制**となり、右派や左派、様々な階級を対象とする多くの新聞や雑誌が刊行されるなど、この時代の**美術の中心**となっていた。
- サロンの審査基準が美術家にとってある種の制限となったことは明らかだが、しかしこの基準や審査制度はしばしば変えられ、**芸術家にとっての自己主張の場ともなりえた。**



ジュローム
《ピュグマリオンとガラテア》

アカデミズムとサロン(2)

- フランス革命後にもパトロンは建築装飾として歴史画や宗教画を注文した。
- しかし、伝統的な家系や古典的教養を持たない**ブルジョワジーが台頭**することにより、知識的背景の不要な**風景画や風俗画が画壇の主流**となっていく。
- 例えば**ジャン＝レオン・ジュローム**はイスラーム世界の風俗を緻密に描く**オリエンタリズム絵画**で人気を博した。



ジュローム 《蛇使い》

アカデミズムとサロン(3)

- 次第に**歴史画は形式的**なものとなり、華やかな衣装や建築、裸婦などを描くための設定にすぎなくなっていた。
- しかし、1860年ごろから絵画の精神性を重んじる**新しい歴史画**のあり方を模索する動きも出てきた。
- **ギュスターヴ・モロー**や**アルノルト・ベックリーン**は**思弁的な絵画**を描き、歴史画の再生として評価された。



モロー

《オイディプスとスフィンクス》

リアリズムの諸相(1)

- クールベ（前回参照）はリアリズムをアカデミズムへの批判として用いた。しかし19世紀の後半になると、アカデミックな訓練を受けた画家の中から理想化を排除して写実性にこだわる画家が出てきた。
- 1860年代に登場した**エドゥアール・マネ**はこのような画家の一人である。



マネ 《草上の昼食》

リアリズムの諸相(2)

- 1870年代の第三共和政期にも**農民や労働者**が多く描かれた。
- この時期にこうした絵画が好まれたのには理由があった。それは国民国家の成立に伴い、下層階級へのまなざしが、**国の担い手としてのものへと変化したから**である。
- ミレー（前回参照）の絵画にみられるような伝統的で素朴な生活者は、ノスタルジーの象徴として、そして国家を支える農産物の生産者として**国力の象徴**となった。



メンツェル 《鉄圧延機工場》

エドゥアール・マネ(1)

- マネはリアリズムの系譜にありながらも、ベラスケスに学んだ自由な筆致と平坦な色遣いを用いた。彼の作品である『**草上の昼食**』や『**オランピア**』は、(神話上のモチーフではない) **現実の裸体の女性を描いた**ことから画壇に大きなインパクトを与え、論議を呼んだ。
- また、本人は否定したものの、**印象派のメンバーと深く交流**し、そのリーダー格として扱われた。
- 『**フォーリー・ベルジュールのバー**』や『**笛を吹く少年**』も有名である。



マネ 《笛を吹く少年》

エドゥアール・マネ(2)



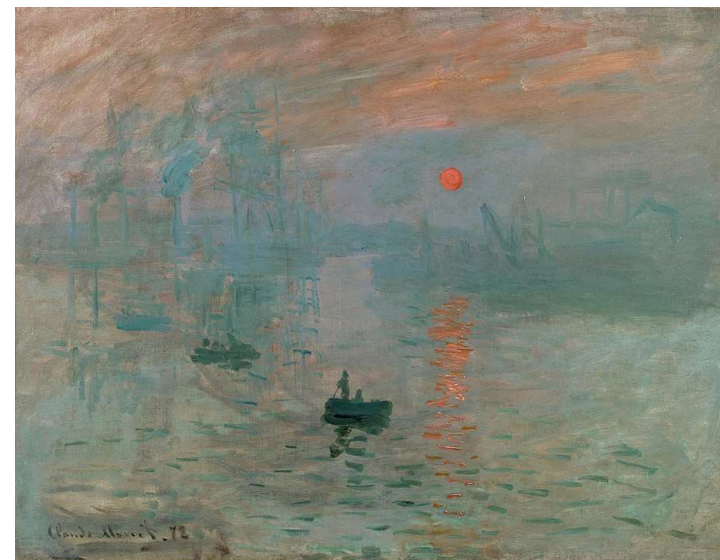
マネ 《オランピア》



マネ 《フォリー・ベルジェールのバー》

印象派(1)

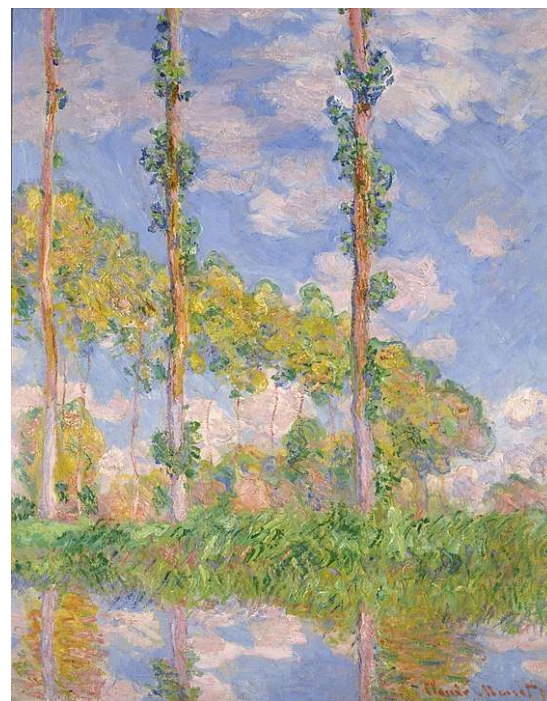
- 19世紀前半の写実主義の流れを汲みつつも、さらに新しい感性をもって絵筆をとったのが1860年代に登場した**印象派**と呼ばれる作家である。
- 彼らは**光の動きや変化の質感**をいかに絵画で表現するかということに重きを置いていた。この目的のために写実主義的な細かいタッチと異なり**荒々しい筆致**を多く用い、また**明確な線が見られない**ような描写をした。



モネ 《印象・日の出》

印象派(2)

- 彼らの多くが用いた手法に**筆触分割**がある。これは色を混ぜずに一つ一つの筆触が隣り合うように配置するという技法で、**混色による明度の低下を避け**、自然の明るい色彩を表現しようとした。
- また、印象派は前衛であり、**サロンに囚われない活動**をしていたことも注目に値する。



モネ 《陽を浴びるポプラ並木》
(国立西洋美術館蔵)

印象派(3)

- さらに、彼らに共通する特徴として、**同時代に対する興味**が挙げられる。
- 印象派の画家の多くは中流階級出身であり、モチーフもヨット遊びや競馬、劇場など、この階級が好んだレジャーが多い。また、彼らの絵画が比較的小型であることも、中流階級の住居の規模を考慮したことが理由である。

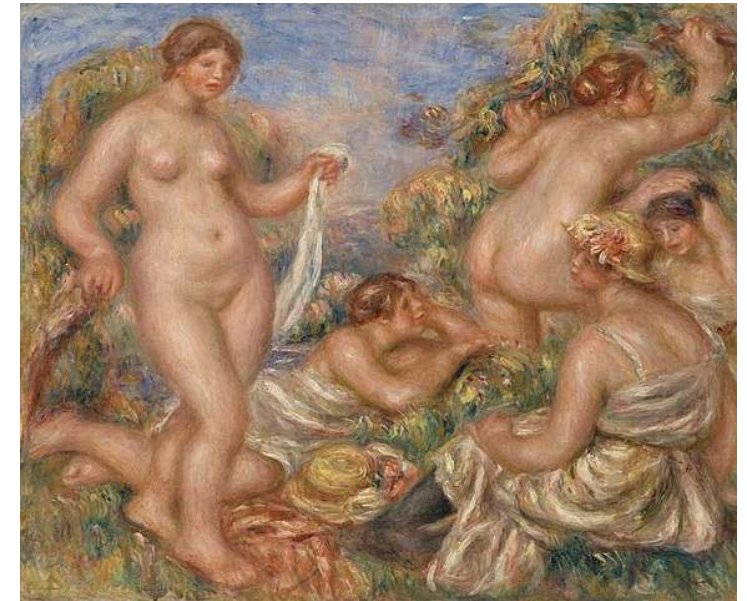


モネ 《船遊び》
(国立西洋美術館蔵)

印象派(4)

• 印象派は以下のメンバーからなるが、前述したマネも印象派の一人として扱われることが多い。

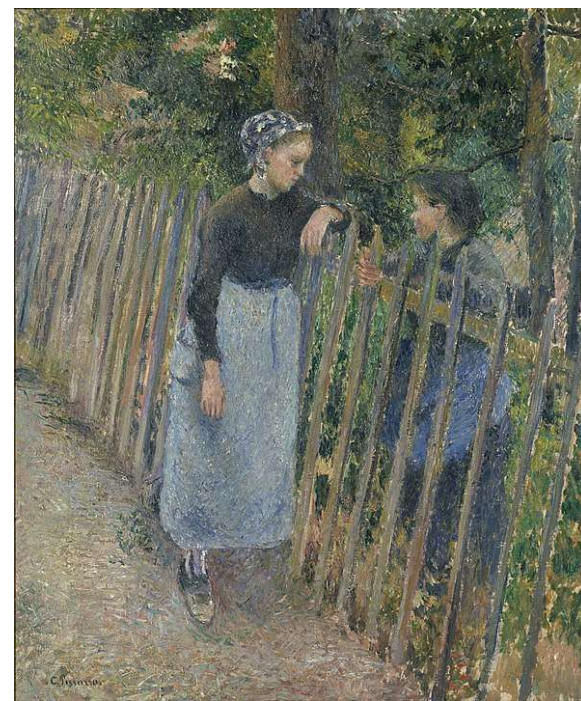
1. カミーユ・ピサロ
2. エドガー・ドガ
3. アルフレッド・シスレー
4. クロード・モネ
5. ピエール＝オーギュスト・ルノワール
6. ベルト・モリゾ
7. アルマン・ギョマン
8. メアリー・カサット
9. ギュスターヴ・カイユボット
10. エヴァ・ゴンザレス



ルノワール 《湯女たち》

カミーユ・ピサロ(1)

- **ピサロ**はクールベやコローから学び、**農村の自然と人物**を主として描いた。
- 彼の美術史による重要性とは、8回行われた印象派展にすべて参加し、**印象派とポスト印象派の両方に貢献**したことである。
- 彼は1000を超える作品を描いたが、その中でも『**ジャレの丘**』が有名であり、また国立西洋美術館で展示されている『**立ち話**』も白眉である。



ピサロ 《立ち話》

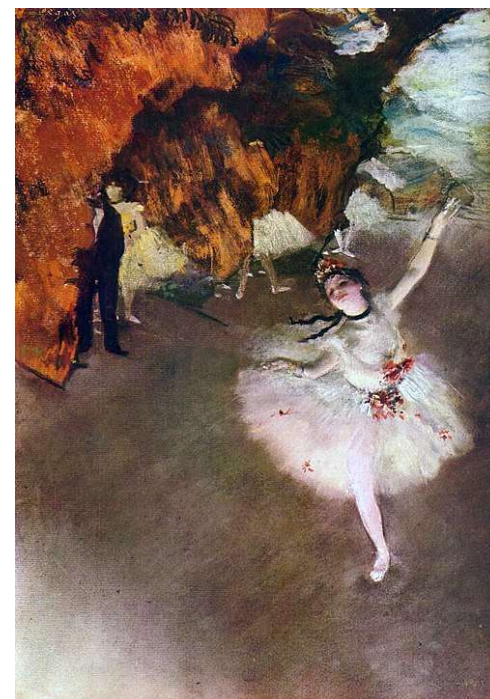
カミーユ・ピサロ(2)



ピサロ 《ジャレの丘》

エドガー・ドガ

- **ドガ**は印象派ではあるが、その作品は他のメンバーとは大きく異なり、アングルに学んだ**古典的手法によって現代生活の様相を描き出そう**とした。
- 彼はモチーフとしてオペラ座の踊り子や上流人士から、社会の底辺である洗濯女や娼婦まで、様々な階層を鋭く観察した。
- 代表作は『**エトワール**』や『**三人の踊り子**』である。



ドガ

《エトワール（舞台の踊り子）》

アルフレッド・シスレー

- シスレーは筆触分割を用いて**風景画**を多く描いた。
- 他の印象派の画家が後に印象派の技法を離れた中で、彼は一貫して印象派技法を保ち続けたことから「**もっとも典型的な印象主義者**」として扱われる。
- 代表作は『**サン・マルタン運河**』である。



シスレー 《サン・マルタン運河》

クロード・モネ(1)

- 印象派の由来である『**印象・日の出**』を描いた**モネ**は**印象派の創設者**であり、自然から受けた「印象」、つまり**主観的な感覚世界をキャンバスに再現すること**を目指した。筆触分割はこの試みのなかで生まれた技法である。
- 『**睡蓮**』、『**散歩、日傘をさす女性**』、『**サン＝ラザール駅**』、『**積みわら**』の連作などが有名である。



モネ 《睡蓮》

クロード・モネ(2)

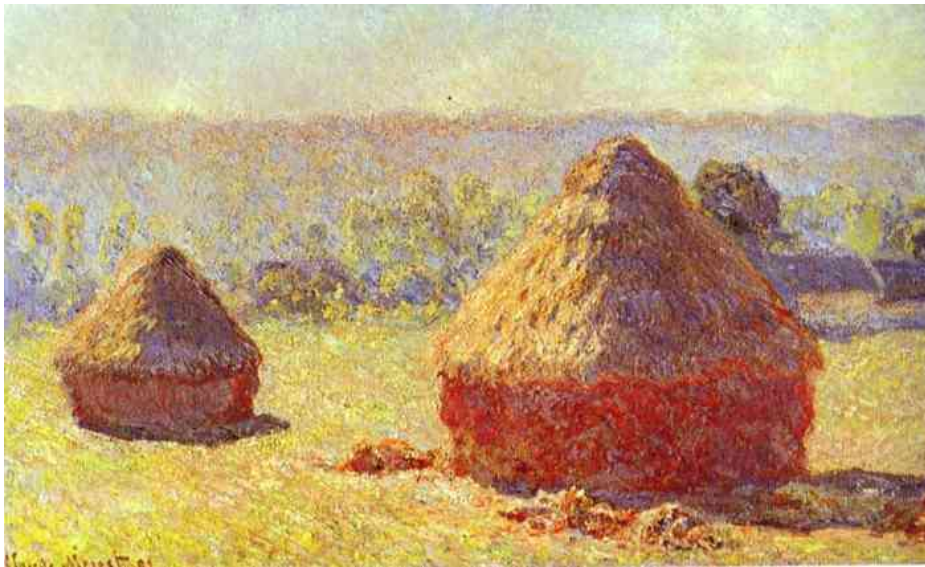


マネ 《サン＝ラザール駅》



モネ 《散歩、日傘をさす女性》

クロード・モネ(3)



モネ 《積みわら - 夏の終わり、朝の効果》



モネ 《明るい日光の中の積みわら》

ピエール＝オーギュスト・ルノワール(1)

- **ルノワール**はロココ美術の影響を受け、**女性や子どもなどの人物画**を好んで描いた。
- 彼は**光を重視**し、輪郭をとらずにすべて色の集まりで描いた。色彩も豊富で、パリ市民の生活を生き生きと平和的に描いている。
- 代表作は『**ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会**』『**イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢**』である。



ルノワール

《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢》

ピエール＝オーギュスト・ルノワール(2)

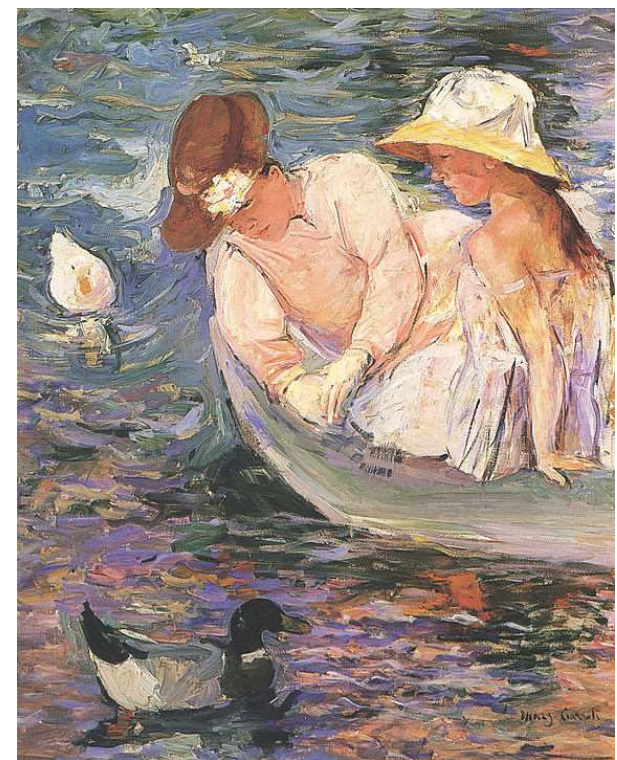


ルノワール

《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会》

その他の印象派画家について(1)

- ここでは簡潔に紹介するに留めるが、他のメンバーも広く知られている。
- **モリゾ**は当時としては珍しい女性画家で、自然や人物をモチーフとした**穏やかな絵画**を描いた。
- **カサット**はアメリカ出身で、独特の力強いタッチで**母子の絆**や**女性の社会的及び私的な生き方**を描いた。
- **カイユボット**は他のメンバーより写実的傾向が強く、**パリの上流階級の生活**を飾り気なく描いた。



カサット 《サマータイム》

その他の印象派画家について(2)



モリゾ 《読書》



カイユボット 《パリの通り、雨》

本日のまとめ

- 19世紀後半では列強体制が緩み、**国家統一**を目指す多くの戦争や紛争が起こった。
- 1880年代になると**第二次産業革命**などの影響や**植民地の再評価**を理由として**帝国主義**が席卷したが、その舞台はアジアやアフリカであったため**大衆文化が成熟**した。
- リアリズムを受け継ぐマネを先駆けにして、前衛である**印象派**が台頭した。印象派絵画の大きな特徴は**光や動き**を表現することに重きを置いた。



モネ 《睡蓮》

次回の内容

- 次回は**ポスト印象主義、象徴主義、応用美術**について扱います。印象派は対象を固有色から解放したが、**形態や空間**をあいまいにした。また、**思想や精神性**への関心も薄く、次の世代の画家はこの問題にそれぞれの形で行き届くこととなる。
- 関連ワード
- ゴッホ『星月夜』
- アール・ヌーヴォー



ゴッホ 《星月夜》